

# 平成27年度 土砂災害防止に関する絵画・作文 地方審査 入賞作品集

地方審査会事務局 山形県県土整備部

## 絵画部門

### 最優秀賞

(敬称略)

#### 小学生の部

#### 中学生の部



白川 茂果 (しらかわ もか)  
朝日町立西五百川小学校 6年

尾形 和紀 (おがた かずき)  
山形市立第六中学校 2年

# 優秀賞

(敬称略)

## 小学生の部



関澤 美空 (せきざわ みく)  
寒河江市立南部小学校 5年



阿部 凌太 (あべ りょうた)  
朝日町立西五百川小学校 6年

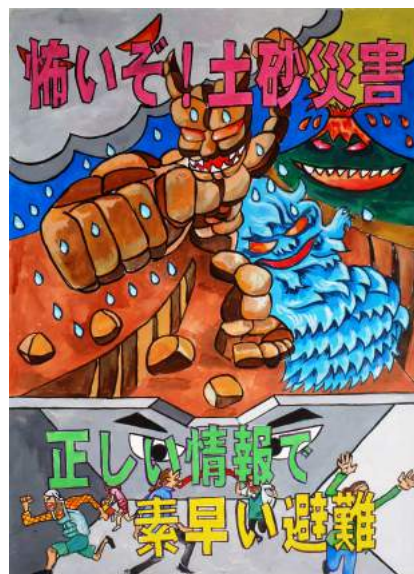


島田 ひかる (しまだ ひかる)  
長井市立豊田小学校 6年

## 中学生の部



須貝 凜 (すがい りん)  
東根市立大富中学校 1年



小山田 航佑 (おやまだ こうすけ)  
河北町立河北中学校 2年

# 佳作

(敬称略)

## 小学生の部



佐藤 はると (さとう はると)  
長井市立長井小学校 2年



大類 渚 (おおるい なぎさ)  
天童市立津山小学校 4年



五十嵐 章斗 (いがらし あきと)  
天童市立津山小学校 5年



長岡 光希 (ながおか みつき)  
朝日町立西五百川小学校 6年



角田 真紘 (かくた まひろ)  
川西町立吉島小学校 6年

## 中学生の部



伊藤 友香 (いとう ゆうか)  
山形市立第六中学校 1年



大坂 愛依 (おおさか めい)  
東根市立大富中学校 1年

## 絵画の部 入賞者一覧

### 小学生の部 (応募数：24作品)

賞	学校名	学年	氏名	ふりがな
最優秀賞	朝日町立西五百川小学校	6	白川 茂果	しらかわ もか
優秀賞	寒河江市立南部小学校	5	関澤 美空	せきざわ みく
	朝日町立西五百川小学校	6	阿部 凌太	あべ りょうた
	長井市立豊田小学校	6	島田 ひかる	しまだ ひかる
佳作	長井市立長井小学校	2	佐藤 はると	さとう はると
	天童市立津山小学校	4	大類 渚	おおるい なぎさ
	天童市立津山小学校	5	五十嵐 章斗	いがらし あきと
	朝日町立西五百川小学校	6	長岡 光希	ながおか みつき
	川西町立吉島小学校	6	角田 真紘	かくた まひろ

### 中学生の部 (応募数：13作品)

賞	学校名	学年	氏名	ふりがな
最優秀賞	山形市立第六中学校	2	尾形 和紀	おがた かずき
優秀賞	東根市立大富中学校	1	須貝 凜	すがい りん
	河北町立河北中学校	2	小山田 航佑	おやまだ こうすけ
佳作	山形市立第六中学校	1	伊藤 友香	いとう ゆうか
	東根市立大富中学校	1	大坂 愛依	おおさか めい

# 作文部門

## 最優秀賞

(敬称略)

### 小学生の部

高橋 きら (たかはし きら)

真室川町立真室川小学校 6年



### 土砂災害から町を守る

(2)

土砂災害から町を守る

真室川町立真室川小学校 6年 高橋 きら

一九七五年八月六日、私の住む山形県最上郡真室川町で、未明からの大雨により、たくさんので増水、ついに下流の堤防が決壊し、真室川町中代郡が水没しました。私の町では、この悲しい出来事をいつまでも語りついでいくために、「八・六水害」と呼び、毎年地域の消防団と住民による防災訓練が行われています。

「八・六水害」が発生した当時、私の祖母は中学生でした。その祖母からは、「土石流や鉄砲水が発生して家ごと流されてしま。ていた電車は脱線し、人は土砂にうま。て七くな。た。」と聞きました。同じくそのころ高校生で、下流に家ごと流され、電車のレールの上を人が歩。ていた。」

と思い出しながら話してくれました。祖父父母からそのような話を聞いて、私は悲しくなりました。いつも生活している町が水と土で流されてしま。たなんて、今では想像がつかません。七くな。た人は、土砂に飲み込まれてとても苦しか。ただろうと自然のおそろしさを感じて脚が、びびりになり、少しでも自然災害が起。こらなくなりたいと思いました。

当時は、今のように「懸念」技術は無く、立派なダムや堤防もあまり無か。たため、水害が起きてしま。たことを知りました。ダムがないと、大雨が上流から土や砂をまきこ下流へ水かさが増し、一気に流れ町を飲み込んでしまいます。この流れを止め、調節するのがダムで、堤防は、強い水の流れから、町を守るために作られるというのを学校の社会の授業や祖父の話を聞いて知りました。

今、私の祖父と母はダムや堤防を作る建設会社に勤めています。日々、ダムや堤防を作。たり、どこかで水害が起きた時には救助に向か。たりしています。ある時、祖父からダムや堤防を作る際の苦労話を聞きました。ダムは、山をけず。た後の作業が重要だそうです。山の地面をコンクリートで固める所から、水がしみ出ないようにする作業がとても難しいそうです。同じく堤防も、地面と丘から絶対水がしみ出ないようにしなければなりません。母は、

「何十年もかけて、新しく造んだダム作りや流されることのない強い堤防作りのために作業員さん達や河川に関わるたくさんの人達。毎日努力しているんだよ。」と教えてくれました。時には、作りかけの堤防が雨によ。て一晩で流されてしま。い、また一から作り直さなければならぬ事もあるそうです。それでも何度もくり返し努力を続け、少しでも多くの命を守るために自然と戦。ているのだと私は思いました。

「何気なく毎日生活をしている中でも、たくさんの人達が、土砂災害を防ぐためにダムや堤防を作り、私達を守。てくれている事を考えると、本当にありがたいと思います。」

私の住んでいる家の近くには、木タルの森があり、夏になると、魚捕まえや川遊びもすることができます。私達人間も、水が無くては生きていくことができません。そして、その水は、自然が作り出す雨によ。てできています。しかし、最近テレビのニュースを見ていると、日本各地で集中豪雨や台風によ。て、土砂災害が頻りに発生しているような気がします。自然は、私達の命を守る大切な恵みであり、時には命をうば。てしまうものでもあると、心に強く思いました。

「八・六水害」の経験を生かしたダム作りや堤防作り。そして、町に住む人達の災害への備え。たくさんの人達の努力と苦力があ。るからこそ、土砂災害や水害のない今の幸せな毎日があるということを、これから心に刻んで生活していきたいと思。います。」

(3)



# 優秀賞

(敬称略)

## 小学生の部

滝口 柊花 (たきぐち しゅうか)

天童市立津山小学校 4年

### こわかったあの大雨だった日

(2)

こわかったあの大雨だった日  
天童市立津山小学校 四年 滝口 柊花

さのうはすごくいいお天気でした。太陽が  
きらきらして、暑かったです。あせがた  
らたら出まきました。天気予報では雨だ、た  
ので、「外れたのかな」と思いました。  
でも、夕方六時を過ぎて少しうす暗くな  
ってきたら、ぽつぽつと雨がふ。てまました  
ほとんど雨は強くなり、十分が過ぎた頃には  
雷も鳴り始め、すごい土砂降りになりました。  
水曜日のため、私は英語の教室で勉強  
中でした。大つぶ雨が突に、ビシビシとあたり  
ました。雷の音がどんどん大きくなり、いな  
ずまも光りました。私はこわくて、勉強して  
いてもち、とも頭に入りませんでした。  
二時間すぎても、雷も雨もおさまりません  
雷はどんどんはげしくなりました。最初のゴ  
ロから、地をひききたいなバギューンとい  
音が変わり、ていしました。後から後からいなす  
まが光り、バギューン、バリバリと雷の音が  
響きました。雷は光、ていない時がないくら  
いでした。土砂降りの雨の中、ようやくお父  
さんの車に乗。たときお父さんと雷が落ちる  
音がしてゆれました。  
「山に落ちたな」  
とお父さんが言いました。私は、土砂災害の  
ことと思ひ出し、こわくなりました。  
この間、学校で土砂災害のちなん訓練があ  
り、土砂災害のこわさを学習したのです。

(3)

危険地区でした。  
こわくな、て家に帰、てからすぐ、お母さ  
んに話しました。地図を見せながら、  
「土砂災害が起きるか。家も危険だよ。」  
と言うと、お母さんがこう言いました。  
「土砂災害は注意報とかが出てもすぐに解し  
まになるから、あんまり心配いらないと思  
うよ。大丈夫。」  
でも、DVDの人たちも、心配いらないと思  
っていたのに起きたと話していたので、  
「でも、大雨のときは危険なんだよ。大丈夫  
と思わずに、けなくちゃ。」  
とお母さんに教えたのです。  
雨が全然やまないので、土砂災害が起きて  
しまうかもと心配になりました。お父さんに  
「寮的公民館にちなんしなくていいかな。」  
と言、たけれど、大丈夫と言われて、結局、  
そのまま家に帰、て、雨と雷がおさまるのを  
待ちました。  
次の日は晴れでした。さのうの天気かうそ  
のようでした。学校に行くとき友達もみんな、  
「さのうはこわかった。」  
「ちなんしなくていいかなとおうちの人に言  
ったけど、大丈夫と言われた。」  
と話していました。  
下校の時に、周りの山を見ると、くすめる  
かもしれないところが、ぱいありました。  
おうちの人は大丈夫というけれど、土石  
流はすごいスピードで速くまで流れていくの  
で、やはり心配です。

(4)

学習会では、土砂災害の危険から私たちが  
守、てくれる「字型の砂防ダムやしゃめんを  
おさえるコンクリートの壁のむけいで実験も  
しました。おうちの人もこれを見てもらっ  
て、雨がいつぱい降、たらすごく危険なこと  
を知、てもらいたいと思ひました。土砂災害  
から私たちを守るためのいろいろな努力も知  
ってほしいです。  
今度大雨が降、て危険だと思、たら、私は  
家族もさそ、てすぐにつけたいと思ひます。

山川 未梨乃 (やまかわ ひなの)  
山形市立東小学校 6年

土砂災害防止について

(1) 土砂災害防止について  
 山形市立東小学校 6年 山川未梨乃  
 みなさんは、昨年、広島県で大雨による大  
 きな災害がありました。テレビで見たり、大  
 雨による土石流が発生し、多くの家が施設  
 が壊されたり、亡くられたりしました。ま  
 ず、多くの命が奪われ、多くの人が、土砂  
 災害の恐ろしさを見せつけられ、自分や自  
 分の家族の命の大切さが改めてわかれ、ま  
 ず、土砂災害の恐ろしさを感じ、家族が亡  
 くなるとして、家が無くなり、長い期間にわ  
 たり、仮設住宅に住んで生活し  
 なければならぬ人がいます。命はも  
 ちろんのこと、自分が生活して行くための食  
 料や生活必需品の大切さがわかりました。  
 こうしたことから、もし、土砂災害が起  
 きた場合の対処法を考えておきたいと思  
 います。

(2) まず、考えたいのは、食糧を確保してお  
 くことです。私の家では、できるだけ日もち  
 のする食糧を用意しています。かんづめや  
 カップアメン、タロリーメイトや賞味期限の長  
 いお菓子などです。ところが、水は用意して  
 いないことに気づきました。水道が止まるこ  
 とも考えられるので、家族と相談したいと思  
 います。

次に、避難をすることになった場合、どの  
 道を通るのが考えました。私の住む地域の  
 避難場所は、近くの花輪公園や東小学校、第  
 四中学校などです。そこに行くまで、みんな  
 がバラバラに通るのではなく、できるだけ早  
 く安全に着けるように道を決めておきたいと  
 思いました。

五年生の社会の学習で、土砂災害が起こら  
 ないよう、起こるとしても被害を小さくす  
 るための対策を行っていると学習しまし  
 た。例えば、山に植樹をして斜面がくず  
 れないようにしたり、山の斜面に柵を作ら

(3) リして土砂を途中で止めたりすることです。  
 私たちの生活を守る対策をしていることが分  
 かりました。

また、土砂災害への警戒を放送で流し、み  
 んなが逃げ遅れないようにしています。これ  
 は、自分だけが避難することを指している  
 のではなく、市民が協力して対処するた  
 めにも役立つ、と思っています。

地域には、病気で寝たきりのため動けない  
 人や足が悪くてあまり歩けない人がいます。  
 そうした人に対して、代わりの人が車を動か  
 してみんなを乗せたりすることができず、  
 災害時には、自分だけが助けられず、い  
 ち早く、その地域に住んでいる人全員を助  
 けなければならぬと思います。このこと  
 と、その大事な家があります。私の近所にも、高  
 齢者だけの家があります。いざという時、私  
 も協力して、助けることがあるかもしれませ  
 ん。

市民が協力することで、地域の人全員が助  
 かると思います。こうして、私自身も協  
 力できることがあれば、ぜひやりたいと思  
 いました。ボランティア活動や募金活動は、代  
 りにでもできる第一歩だと思います。

土砂災害は、起きてしまえば、本来にこわ  
 い災害です。自分の命も、家族の命も、み  
 んの命も大切に守らなければいけません。  
 代わり、今のうちにできる準備をしてお  
 かなければならぬことが、改めて分かりま  
 した。

今回、土砂災害について考えたことは、と  
 ても良い勉強になりました。これから、  
 も世の中のできごとと目を向けて、他人事  
 ではなく、身近なものとして考えていき  
 たいと思います。





小口 玲菜 (こぐち れな)

白鷹町立鮎貝小学校 6年

自然災害のおそろしさ

(2)

「羽越水害のようにならうぞ」と前に聞いた大災害の話を出してしまいました。

昭和四十二年、今から四十八年前、祖母が中学三年生の時だ、たろうです。

八月二十八日朝五時三十分ころ、す、と降り続いていた雨のせいで、最上川の堤防が決壊し、私の家は一階全部がうまるほどの水がおし寄せたそうです。家はちよほど新築したばかりで、まだ住んでいないところを大

(1)

自然災害のおそろしさ  
鮎貝小学校  
六年 小口 玲菜

近くの川があふれ、家の前の田んぼが一面の水でうもれてしまっていました。「すごい雨だな。こわいくらいだ」と思っていたら、祖母が、「ちよと回りの様子見てくつから、玲菜も行ってあげるわ」と

と言のいで、車に乗って、いっしょに行ってみることにしました。

家の前だけではなく、大きな道路にも水が上がり、周りの畑や田んぼといっしょになっ、大きな海の様になっていました。車が通ると大きな水しぶきが上がり、「ぼんぼん」と通れるのかな」と思うほどでした。川からあふれた水が、ぐるぐるまわって、すすまきのよみになっていました。部落の神社のわきからは、溝のように水が流れ、土や石がくずれ落

(4)

らていました。そんな様子は今まで見たこともなか。たので、とてもびっくりしました。「神社のわきがくずれるなんて、今まで見たことないな」と、祖母が言っていました。

夕方のニュースで、南陽市や白鷹町が町で川がはんらんしたり、山がくずれたことを知りました。わたしは、「家の周りにも水がすごいから、もうすぐこんなふうになっ、しまうんじゃないだろうかい」と不安になりました。

た。「羽越水害のようにならうぞ」と前に聞いた大災害の話を出してしまいました。

昭和四十二年、今から四十八年前、祖母が中学三年生の時だ、たろうです。

八月二十八日朝五時三十分ころ、す、と降り続いていた雨のせいで、最上川の堤防が決壊し、私の家は一階全部がうまるほどの水がおし寄せたそうです。家はちよほど新築したばかりで、まだ住んでいないところを大

(3)

洪水にあっただろうです。祖母は、家のうが山だ。たので、その後ろの山にのぼって、おんしたそうです。おんしたところには、泳いでにびてきて、くりにたろうです。水が引いた後、家の中のゆかが波うつように、いこまこになつたため、ゆか板をばがし、ゆか下を消毒したり、せんぶのさるをけつて、かんろつしたりしたそうです。水が全部引くまで、時間がかかり、後片づけがたいへんだったそうです。

そのころ、私の家では、牛やにわとりをがい、田んぼの他にホップなども作っていたので、親せみの人がよくこん手伝いに来てくれたそうです。でも、田んぼのいねの被害は、とても大きく、ほとんどのいねがどうん状態で、たいへんだ。たと聞きました。いねカリの作業は、あらじ高等学校の生徒や農協青年部の方のたすけをもらいながらやりました。どうです。どうだらけなので、一束ずつ手送り、農道まで送り、水路で洗ってからはせがけをしゃかんろつしたそうです。

そのころの最上川の堤防は、今よりニメートル以上低かった。たろうなので、今の堤防がこわれたら、わたしの家は全部水につかってしまったらうと、祖母が話していました。もしほんとうに堤防が決かいたら、わたしのなるたらうと心配になりました。

最近では、日本だけでなく世界のあちこちで台風やたつまきの被害が起きていて、いつ何が起きるかわかりません。テレビなどで報道されてくるのを見るときは、こわいです。また、せしんや火山のふん火などもあります。いろいろなことを想定して、わたしたちは、おんん訓練を一年に何度かやっています。その内容をしっかり覚えて、おんんときも命を自分で守るようになり、いかなければならぬと思えました。

## 作文の部 入賞者一覧

小学生の部 (応募数：7作品)

賞	学校名	学年	氏名	ふりがな
最優秀賞	真室川町立真室川小学校	6	高橋 きら	たかはし きら
優秀賞	天童市立津山小学校	4	滝口 柊花	たきぐち しゅうか
	山形市立東小学校	6	山川 未梨乃	やまかわ ひなの
佳作	天童市立津山小学校	4	山口 亮	やまぐち りょう
	白鷹町立鮎貝小学校	6	小口 玲菜	こぐち れな

中学生の部 (応募数：2作品)

賞	学校名	学年	氏名	ふりがな
最優秀賞	白鷹町立白鷹中学校	1	小関 竜斗	こせき りゅうと

## 審査状況



## 応募状況

＜ご応募いただいた学校＞ （順不同）

小学校	
山形市立東小学校	真室川町立真室川小学校
天童市立荒谷小学校	川西町立吉島小学校
天童市立津山小学校	長井市立豊田小学校
寒河江市立南部小学校	長井市立長井小学校
河北町立谷地南部小学校	白鷹町立鮎貝小学校
朝日町立西五百川小学校	酒田市立若浜小学校
東根市立大森小学校	

中学校	
山形市立第六中学校	米沢市立第六中学校
河北町立河北中学校	高畠町立第一中学校
東根市立大富中学校	白鷹町立白鷹中学校

	応募学校数	絵画	作文
小学校	13	24	7
中学校	6	13	2
計	19	37	9



たくさんのご応募ありがとうございました！